本誌・スキルアップセミナー「心・美・体」がついに開講！

ダンスファン

10

980円

レッスン・デモ 45分

特別デモンストレーションつき
ラテン・ベーシック
立石勝也・裕美

美神のたなごころ
メリア

海外コーチ訪問
アンドリュー・シンキンソン

特集1
〈本誌独占インタビュー〉
世界トップダンサー&コーチャーに聞く
“本音”
Real intention

特集2
〈大村淳毅・和田恵組が実演〉
ダンサーのための筋膜マッサージ

“クオリティー・ダンス”の復権を望む

コーチ訪問 海外編

マーカス・ヒルトン、ジョン・ウッドと並んで90年代前半に「ビッグ・スリー」と称えられ、後にも先にも並び無きフォックストロットの名手として君臨。波乱万丈のダンス・パートナー歴を経て、今や献身的家庭人としての幸福を噛み締める“アンディー”の、ダンス人生回顧とダンス哲学をここに。

INTERVIEW & TEXT: MEIRI MARIMO
PHOTOGRAPHY: IGOR MASLOV (bestdancefotos.com)

Andrew Sinkinson

英国リヴァプール生まれ。6歳でボールルーム・ダンスを開始し全英選手権ジュブナイル&ジュニア両部門2位、同ユース2連覇。妻(当時)ロレイン(現姓バリッキ)と組んで1987-89年同アマ3連覇。90年UKオープンでのプロ・デビュー戦で3位に付け、90年代前半M・ヒルトン、J・ウッドと共に3強時代を築く。その後A・オーウェン(現姓ドックマン)、A・プレストン(現姓タナカ)らを経て1997-2000年シャーロッテ・ヨルゲンセンと組み全英2位など全戦決勝上位。00年引退。

Knocking on the Door of...

香港のスタジオ、東京のWSS

連日気温30度以上、湿度90%前後が続く7月下旬の香港。強烈に冷房の効いた高級ショッピングモール内のカフェで、伝統的フォックストロット美学の代名詞、アンドリュー(“アンディー”)・シンキンソンと落ち合う。彼は7〜8月の5週間、M・マリトウスキーらとダンス・スタジオ「Dansinn Heavenly」を共同経営するこの地に、妻イリーナ、13歳の息子マーク、4歳の娘ソフィーの一家4人で滞在中。コンペ&ショー行脚の途上で立ち寄る世界トップ級カップルから地元のホビー・ダンサーに至るまで多様な生徒にレッスンを施し、8月中旬にはワールド・スーパースターズ(WSS)プロ&アマ・ミックス・デモ部門への出場を兼ねて香港レディーの一団と共に東京を訪れる。「WSSまでに痩せないと(デモ・パートナーの生徒に)殺されちゃうよ」と苦笑する彼は、急勾配で知られる観光スポット「ピーク」への連日の登頂と、サラダのみの夕食を、3週間先の本番まで貫き通した。

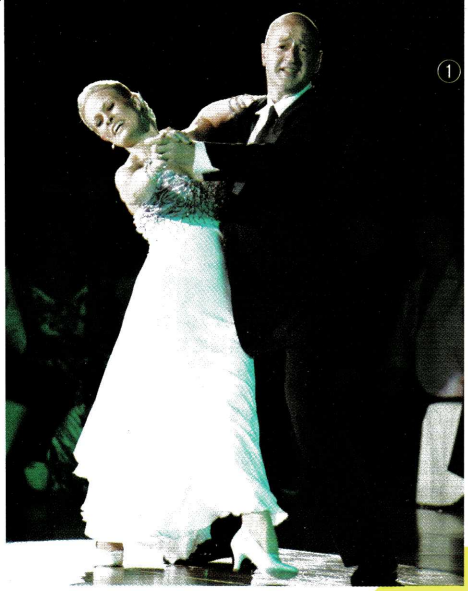
「6歳の時、故郷のリヴァプールのダンス・スタジオに入門したけど、すぐに元世界チャンピオンのジョージ・コード&パット・トンプソンが経営する近郊のスタジオに移籍。将来のカレン・ヒルトンもそこの生徒で……」。彼がキャリアの胎動期を語り始めてほどなく、妻イリーナが対話のテーブルに加わる。同席がてら、娘の北京語のレッスンが近所ではねるのを待つと言う。

「ソフィーは僕に似て活発な性格なんだ」。マークは今秋「英国一の名門校」に進学予定。「子供たちにダンスはさせない」と断言する彼は、もしかしたら、後に最初の妻となるアイルランド人ロレイン・バリーとのパートナーシップに専念するため6歳で放棄した学校教育を——そしてそれに伴う、自分が得たものとは別種の機会と報奨を——与えてやりたいと願っているのだろうか。

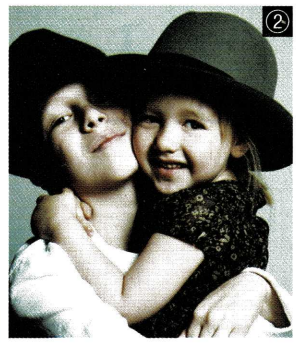
ロレイン、ロンドン、乱高下

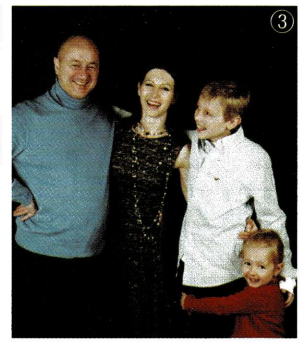
すでに全英選手権ジュブナイル、ジュニア両部門で2位、ユース部門で優勝を遂げていたアンディーは1984年、BBCテレビのダンス競技番組で知り合ったロレインをアイルランドからリヴァプールに招いて両親宅に同居させ、今度は彼女と全英ユース2連覇。が、ほどなく「プレゼンス(=ルックスを含めた存在感)は抜群、ダンスはほどほど」の現状を打破すべく、ビル&ボビー・アーヴィングとリチャード&ジャネット・グリーヴの両巨頭夫妻に師事すべく、ロンドンに移住した。

ダンス仲間がエスパン・サルバーグら歴代チャンピオンが修業時代に住んだゲンの良いアパートを調達してくれたものの、ユース2連覇の決勝で二度とも最下位6位を付けられたボビーと夫のビルに、初手から「無愛想。冷淡。けんもほろろ」で迎えられる。「でも僕は全然怖気づかなかった。彼らの態度が気に入ったね。『もっと頑張ろう。認めさせてやろうって』って気になるじゃないか」。夫妻は「ダンス的にも洗練されない田舎者」だった二人のワルツを一目見て、案の定手厳しく「最初から全部やり直さないとダメ。



①2010年8月、WSS20周年記念で10年ぶりにシャーロッテとフォックストロットを披露。会場の熱狂的歓呼に応えてアンコールを繰り返した。
(PHOTO COURTESY: MAKOTO SEKIGUCHI)





②マーク(13歳)とソフィー(4歳)
③シンキンソン一家／
(COURTESY ②&③IRINA SINKINSON)
④愛妻イリーナ (PHOTO BY IGOR MASLOV)

マーカスとジョンゆえにハングリーであれた

良くなる前に一度もっと悪くなるから、そのつもりで」。

その警告通り、続くアマ・デビュー戦から成績は一挙に底打ち状態。思い余って「僕、もうダンスをやめたい」と電話を寄越した一人っ子のアンディーに、ダンス経験皆無の父親が「あと1か月だけ頑張ってごらん」。するとその1か月間に成績は右肩上がりとなり、全英では「1年目(85年)10位、2年目3位、3年目から(87―89年)3連覇。インターナショナルでは85年準決勝7位で、翌年は優勝。最近はこういう戦績、ジャンプは起こり得ないけどね」。

シャーロッテ、そしてイリーナ

90年UKオープンでのプロ・デビューでマーカス・ヒルトン、ジョン・ウッドの両先輩に次ぐ3位。以来日本で「ビッグ3」と称される3強時代が続く。「もっと時期がずれていたら頂点に立てたかも」という思いの反面、「彼らにハングリー精神を刺激されて、より良いダンサーになれた」。その結果92年全英のフォックストロットで始めて彼らを下し、キング伝説が始動。

が、93年に突然ロレインが去り、「『負けるものか』という生存本能」に衝かれて即アマンダ・ドックマンと組むも、1年足らずで解消(本誌今年4月号「A・ドックマン」インタビュー参照)。「僕にはじっくり考える時間が必要だった。(ロレインが去った)何か月後かに初めて、本当の意味でその衝撃を味わったんだ。まるで誰かにノック・アウトされて床に打ちのめされたみたいに。ダンスをやめるとか何とか考える以前に、とにかく立ち止まらなきゃならなかったんだ。だから8か月近く何もせずに引き籠ったよ」。

が、やがて「ゆっくり世界に押し戻されて」、まずは米国人「初心者」と、次いでアデール・プレストンとの短命コンビを経て、元アマ世界チャンピンのデンマーク人・プロ、シャーロッテ・ヨルゲンセンと97年に新チーム結成。同年全英4位から99年には2位に上がり、彼女の踊りに数年来探し求めていた「第二のロレイン」の可能性を実感する。が、2年越しの求愛を実らせて99年に結婚したイリーナと幼い息子との家庭生活を優先するため、2000年早々このパートナーシップに、ひいては競技生活に終止符を打った。

ロシア、コーチ技術、伝統回帰

その後間もなく結婚前後の「貧乏生活」を打破すべく、イリーナの提案でモスクワに移住。まだ著名外国人コーチに教わる機会がごく限られていたロシア各地で熱烈歓迎を受けるうち生活は軌道に乗り、コーチとしての方法論も確立していく。「僕は引退後に教え方を体得するまで5年かかったよ」。その過程で、ロシア各地で必ずと言っていいほど求められるグループ・クラスが重要な役割を果たしたという。「グループ指導には確固たる(段取り)構築が不可欠だからね。それにグループ内個々人の気をそらさないため〈強い〉教師であらねばならない。この点ビル(・アーヴィング)とリチャード(・グリーヴ)が良い手本になった。(コーチングの秘訣は)good structure & great delivery(確かな構築と立派な伝達法)だね」。

今ボールルーム・ダンスの現状を彼に問うと、元ロシア10ダンス・チャンピオンの夫人と口を揃えて、「シンプルで洗練された伝統的クオリティー」が打ち捨てられ、「成績至上主義のあまりベーシック・ステップを顧みないhigh energy, high context(エネルギー噴射にまかせた複雑なステップの連発)」が蔓延していると嘆く。「ダンスは進歩なんてしてないよ」。が、その一方で微かに光明も見出している。「今年の全英で(のダンスに)は落ち着きとクオリティーが(昨年までより)あったと思うよ」。トレンドは回帰しつつある?「だといいね」。時代に媚びないアイコンは小さくうなづいた。